

中斎塾 東京フォーラム 第11回講話

令和7年12月13日(土)

お早う御座居ます。最初にご報告です。理事の川村さんが、先月お亡くなりになりました。川村さんは北関東フォーラムのメンバーで、長年にわたり理事として大変ご尽力下さいました。

梅川さんとともに、毎回 Zoom には必ずお顔を出して下さり、手を振りながらお話していたことが思い出されます。川村さんは、享年 78 歳でした。ご家族も、これほど急変されるとは思っていなかったそうです。

今回は北関東フォーラムの方の訃報ということで、まずは皆さんにご連絡させて頂きました。『知足』1月号に、以前の国分先生の際と同様、訃報のみ掲載させて頂けます。

次に、大友さんのお話についてです。本日の素読は大変気合が入っており、どこか悲憤慷慨のような雰囲気、我が意を得たり、という感じで聞いておりました。選んだ理由についてのお話も大変良かったと思います。

本日の素読は、高市早苗さんが総理大臣に就任され、世の中に前向きな流れが生まれていますから、今の状況にちょうど良い箇所を選んで戴いたと感じます。まず、素読について解釈し、大友さんが本日伝えたかった事を、少し広げながらお話ししていきたいと思います。それでは参りましょう。

①顔淵第十二【9】

あいこう ゆうじゃく と いわ としう よう た これ い か ん ゆうじゃく こた
哀公 有 若 に問いて曰く、年饑えて用足らず。之を如何にせんと。有 若 対えて
いわ なん てつ いわ に われ なお た これ い かん ぞ そ てつ
曰く、盍ぞ徹せざると。曰く、二すら吾 猶 足らず。之を如何ぞ、其れ徹せんや
こた いわ ひやくせい た きみ たれ とも た ひやくせい た
と。対えて曰く、百 姓足らば、君 孰と与にか足らざらん。百 姓足らずんば、
きみ たれ とも た
君 孰と与にか足らんと。

魯国の君主である哀公が、有若に質問しました。「今年は飢饉で、国の財政が苦しく、税収が足りません。どうすればよいでしょう」。

これは、国の施政者である哀公が、孔子より 13 歳年下の弟子である有若に相談している場面です。当時既に税を二割取っていましたが、それでも足りない状況でした。哀公としては、もう少し税を増やしましょうと有若が言ってくれる事を期待しながら尋ねたのだと考えられます。

ところが、有若をはじめとする孔子の弟子達は、税は一割で十分であり、それ以上取ってはいけなと教えられていました。孔子の考え方では、とにかく税金は少なければ少ないほど良い、というのが基本でした。その為、有若は自信を持って、一割で良いと答えたのです。

これに対して哀公は、二割取っても足りないのに、さらに一割に戻すなど、そんなことができるのか、と反論したのでしょうか。

ここで、木内信胤先生の興味深い言葉を紹介させて戴きます。国家として税金が足りず困っていて、何とかしなければならなくなった時、取るべき道は増税ではなく、むしろ減税だということです。世の中にもう増税するしかないという言葉が広がり始めた時こそ、答えは減税である、と木内先生は述べておられます。

税金が足りず苦しいからと増税をすれば、国が減びるまでいかになくとも、それがうまくいかないことは歴史が示している、というのが木内先生のお考えです。

有若は答えて言いました。「百姓、すなわち民が満ち足りていれば、君主だけが不足することなど、どうしてあり得るでしょうか」

これを現代に置き換え、会社に勤めている場合で考えてみます。百姓を社員と考えると分かり易いでしょう。社員一人ひとりが生活に困らない程の十分な給料を得ていれば、社長だけ貧しくなる事はありません。

逆に、社長が一人だけ非常に高い報酬を取り、社員達は食べる事にも困る苦しい生活をしている。そんな会社があったとしたら、いずれ必ず立ち行かなくなるでしょう。

「百姓足らずんば、君孰と与にか足らん」とは、国民が貧しく苦しんでいる時に、君主だけが富み、多くを得る事など不可能ではないか、という意味です。こ

れは、給料が低く抑えられて不満を抱える社員がいる一方で、社長だけが利益を独占している会社が、長く続く筈がない、という話と同じです。

②憲問第十四【30】

し いわ くん し みち もの み われ よ な じんしゃ うれ ち しゃ
子 曰く、君子の道なる者三つあり。我 能くすること無し。仁者は憂えず。智者
まど ゆうしゃ おそ し こう いわ ふう し みずか い
は惑わず。勇者は懼れずと。子貢 曰く、夫子自ら道えるなりと。

孔子が言われました。「君子として生きる為に実践すべき道が三つある」
仁ある人はくよくよ悩まず、知恵ある人は迷わず、勇気ある人は恐れない、とい
う意味です。

ところが孔子は、自分には何も出来ていないと言います。後世の人々は、孔子
は自分の事を語る時、謙遜する奥深い人だと解釈しています。しかし、この言
葉は謙遜ではなく、孔子の本心だったのではないかと思います。

子貢はここで「夫子自ら道えるなり」と付け加えています。この言葉は、先生
ご自身が語られたものであり、孔子の言葉として受け止めて下さい、という補足
です。

素読はこれにて終了致します。

令和 8 年の干支について

来年は丙午（ひのえうま）の年にあたります。丙午については、中国で生まれ
た迷信があり、日本にも伝わってきました。その影響で、前回丙午の年には出生
率が前年比で 25%も下がったという事実があります。その為、来年の出生率が
どの程度変化するのか注目しています。

なぜ出生率が下がったのでしょうか。昔からの迷信では、丙午の年に生まれた
女性は、エネルギーに溢れ激しい性格の女性が多く、夫にとって良くない影響を
及ぼすと言われてきました。その為、親の立場からすると、丙午生まれの女性は
嫁として迎えるべきではないと言われることがありました。

男性側でも、結婚を考える際に干支を尋ね、丙午と答えられると、縁談を躊躇
する事もあったようです。こうした考え方は、迷信に過ぎません。しかし、中国

から伝わった迷信は、日本でも迷信だと言われながら、長い間人々の意識の中に残り続けてきました。この迷信が60年経って本当に薄れているのかどうかを確かめる一つの目安が、来年の出生率でしょう。

従いまして、来年はエネルギーに満ち溢れた力強い女性が生まれる年回りだとお考え下さい。

では、私なりの解釈として、来年についてのお話を致します。このような話をする場合、まず前回の丙午に何が起きたのかを振り返り、それと同様の事が起こるのかどうかを考えてみます。

前回の丙午には、航空事故が相次ぎました。全日空の事故を含め、大型旅客機の事故が続く、さらに事故調査に向かった自衛隊のヘリコプターまで事故に遭うという状況でした。その為、大型飛行機に乗るのは少し不安と感じる空気が社会全体に広がっていたという点が一つ挙げられます。

また、ストライキが非常に盛んな時期でした。大学では、学生たちが様々な要求を掲げて行動を起こし、早稲田大学、横浜国立大学、明治大学、中央大学等で争議が続きました。授業料値上げへの反対はまだ良い方で、学生たちは持て余したエネルギーを、大学や社会に対して強くぶつけていたのでしょう。社会全体が非常に騒がしい雰囲気でした。

学生だけでなく、社会人もこれに加わる形で動きました。特に交通関係のストライキは戦後最大規模と言われ、公労協を初め、多くの労働者が参加する大きなものでした。

学生が動き、労働者が動く中で、政治の世界も無関係ではいられませんでした。当時は、黒い霧事件と呼ばれる不祥事が問題となり、政治家による不正や圧力が厳しく追及されました。当時の総理大臣であった佐藤栄作氏は、政治の行き詰まりから衆議院を解散します。解散総選挙の結果、自民党は大きく議席を減らし、得票率も過半数を割ることになりました。こうした出来事をきっかけに、社会や政治の流れが大きく変わり始めた時期だったと言えるでしょう。

過去の丙午を振り返りますと、一般社会と絡み合ったエネルギーが爆発するような、社会全体が大きく揺れ動いた年でした。そうした背景を踏まえた上で、来年はどうなるのかを考えてみたいと思います。

来年を一言で表すなら、生き延びる為の戦いが始まる年だと考えています。これまで私は、食べ物について自給自足を目指しましょう、その為の準備をしておきましょう、とお伝えしてきました。来年は、自給自足の準備が整っているかどうか問われる年になります。準備が整っている人は、何が起きても対応でき、幸運の女神が微笑む年になるでしょう。逆に、準備ができていない人にとっては、大変な年になるのではないかと考えています。

もう少し具体的に言いますと、現在は物価高騰が話題になっていますが、来年はインフレがさらに加速する年です。既にインフレ状態ではありますが、そのスピードが一段と上がっていくと見ています。

その根拠の一つとして、高市早苗さんが総理大臣になった際に語った言葉があります。新聞等を見ますと、「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」と言葉が並んでいましたが、そこには句読点が打たれていませんでした。

私は来年の『知足新年号』の巻頭言で、この「働いて働いて」という言葉を引用しました。その際、一つひとつ区切られていると思ったので「働いて・働いて・働いて・働いて、働いて参ります」と、書きました。

この「働いて、働いて」という発言は、日本人にとって、働く事は良い事であるという考えが根付いている事を意味しています。ヨーロッパやアメリカでは、働く事に対して贖罪や、仕方なくやるものというマイナスの印象があります。

日本人は元々働くことに良いイメージを持っています。ところが、最近日本の政治は働き方改革等を通じて、働く事はあまり良くない、という方向へイメージを変えてきました。

働き方改革は一見良さそうに見えますが、実際には抜け落ちている部分も多くあります。自営業の人にはあまり関係ありませんし、会社を経営している人にも直接関係ありません。結局、経営者は働かなければなりませんし、政治家も、官僚も働く必要があります。そうした中で、これまで覆い隠されてきた働くことは良いことだという価値観を、高市さんは「働いて・働いて・働いて・働いて、働いて参ります」という言葉で、はっきりと打ち出したのだと思います。

実際に、高市さんは夜中の2時に出勤して仕事を始めました。すると、その周囲にいた100人程も、自然と働かざるを得なくなりました。それに対して立憲民主党は批判しましたが、そもそも夜中まで働かざる得ない状況を作ってきた

のも、国会運営のあり方に原因があります。

例えば、質問内容の資料が前日夕方 6 時までに出されると、官僚が徹夜で答弁書を作り、完成するのが深夜 1 時や 2 時になる。そうなれば、それを確認し、答えを考える時間が削られ、ミスが起き易くなります。こうした実態が、次第に明るみに出てきたのです。

このような背景から、「私は率先して働きます。周りにも一生懸命働いてもらいます」という姿勢は、国民から見ても決しておかしいものではありません。国の方針に逆らっていると批判する人は殆どいないでしょう。むしろ、良い事を言った、働く事は前向きで良いことだ、とプラスの感覚で受け止められているのです。では、これが最終的にどのような流れにつながっていくのでしょうか。

高市早苗さんは、安倍さんのやったことを踏襲すると明言しています。安倍さんが行ってきた政策について、大変良い事であり、その考え方を引き継ぐと言っています。考え方を踏襲するということは、結果としてインフレを加速させるという宣言をしたようなものです。

その具体策が、いわゆるバラマキ政策です。お金をどんどん配れば、インフレが進むのは当然です。これはまさに朝三暮四です。言い方は悪いですが、国民は細かいところは分からないだろうと言っているのと変わりません。

朝三暮四とは、猿に餌を与える話です。これまでより木の実を減らされると聞いた猿たちは不満を言いますが、それなら朝は 3 つではなく 4 つにしましょうと言われると、内容は変わっていないのに喜びます。実際には、配分を入れ替えただけです。

高市さんの発言を見ていると、国民の皆さんは給料や収入が少なくて大変です。特に一般の方々や家計を守っている方、車を使っている方は大変でしょうから、ガソリン代をもっと安くしますと聞こえます。バラマキもどんどんやります、とあれもこれも出してきている印象です。

表では与えているように見えながら、裏では食べるものに困り、命を落とす人が少しずつ出てきていると感じています。以前はポツポツ出ていると言っていましたが、最近では YouTube などを通じて、その数が少しずつ増えているように感じます。

コロナの時は、今月の死者数何名という報道がされてきましたが、そのうち今

月の餓死者は何名という報道が出てくるようになるのではないかと考えています。来年すぐ公にそうした言い方をすることは無いでしょうが、数年のうちに、そのような表現が使われるようになる可能性は十分にあると思っています。

インフレが加速すると、逃散が起こります。逃散とは、税などの負担が五公五民、つまり収入の半分を取られるようになると、人々が生活できなくなり、土地や仕事を捨てて逃げ出す現象です。江戸時代には蓆旗（むしろばた）が立つと言われていました。今の日本も、実態としては既に五公五民の状態であると思っています。

そんな中で、今日の新聞を見て強い違和感を覚えました。今日は朝日新聞、日経新聞、読売新聞を見ました。朝日新聞は一面トップの最も目立つ場所に「日銀が利上げ、0.75%」と書いていて、読売新聞は一面の左側に「利上げ検討」と書いています。検討という表現は、まだ確定ではないが考え始めた、という意味でしょう。

日経新聞は「利上げへ」と書いており、日銀が利上げの方向に動いているというニュアンスです。朝日新聞は公算大と表現しており、確定とは言えないが、かなり可能性が高いという書き方をしています。この中では、朝日新聞が最も確信的な表現です。日経がそれに追随し、読売は検討として、外れた時にも言い訳ができるような書き方をしている印象を受けました。

これは目先の話ではありますが、利上げをして金利を上げ、利息が高くなれば、たとえ0.25%であっても影響は出ます。日銀が利上げを始めるということは、自らの首を絞め始めたとも言えます。それほどまで、追い込まれた状況になってきているのか、あるいは様子を見るために、まずは軽く締め始めたのか、そのどちらかだと考えています。

私は、来年から生き延びる為の戦いが始まる年だと捉えています。そう考えている人と、そう思っていない人とでは、いざ強い締め付けを受けた時の抵抗の仕方が全く違ってきます。そうなれば、先程申し上げたように、ストライキが増えますし、さまざまな混乱も増えていきます。その結果、治安は悪化し、事故も増えていくでしょう。

最近、気づいたのですが、高齢の方が交差点を渡っている途中で赤信号になってしまう場面をよく見かけます。私は最初、赤信号が見えているのに渡っていると思っていましたが、そうではなく、高齢になると、赤信号そのものが見えなくなるようです。

年を重ねてくると、私自身も実感していますが、例えばホテルに泊まる時でも、フロントで話をするのが殆ど無くなりました。画面を見ながら操作することが多くなりました。

また、高齢の方は、色の判別も曖昧になってきます。赤信号なのか青信号なのかも分からないまま、交差点を渡ってしまうことがあります。それでも本人は、若い頃感覚で行動しています。周りから見るとよたよたしているように見えても、本人はすたすた歩いているつもりなのです。

このような状態ですから、交差点で高齢者が事故に遭うのは、ある意味不思議なことではありません。来年以降、こうした理由で命を落とす高齢者は、さらに増えていくのではないかと感じています。

それにもかかわらず、高齢者はどの程度、見えていないのか、聞こえていないのか、本人にどのくらい自覚があるのかといった点を、医学的に研究し、発表している医師や、そうした研究をきちんと行っているという話を、聞いたことがありません。そこが非常に大きな問題だと感じています。

道を歩いている時や、特に東京駅を歩く時、人にぶつかりやすいと感じます。上野駅も、最近ではぶつかってくる人が増えているように思います。ぶつかってくる人の大半は、スマホを見ながら歩いています。スマホを見たまま、まっすぐ前に向かって歩いてきたり、斜めの方向に歩いてきたりするのです。この人はぶつかってくるなと思うと避けますが、世の中全体が、そういう状態なのではないかと思っています。多くの場合、目の前にあることに気を取られてしまい、少し先のことを見ていないのです。

目の前のことしか見えなくなってしまうと危ない。目の前だけでなく、少し先まで見た方が良いでしょう。しかし今は、そのように少し先を見る人が、非常に少なくなっていると感じます。

つい最近、高校時代の友人に会いました。その友人は、いわば死の四重奏と言うのでしょうか、幾つもの病気を同時に抱えています。今の時点では大腸癌で、

手術を受けたばかりです。最近は大腸癌、特に直腸に癌ができるケースが多いそうで、手術は成功して、それ自体は良かったと言っていました。

最近、外に出られないということで自宅にお見舞いに行きました。苦しいと言うので理由を聞くと、最近の手術は医療用ホチキスで止めるそうです。私の中では、糸で縫って、それが自然に溶けるという印象がありましたが、今はホチキスでパチパチ止めて終わりだそうです。そのホチキスがそのまま残り、痛くて困っている、という話を聞きました。

更に、最近目はだんだん悪くなってきているようです。目自体は特に大きな病気があった訳ではないが、見えるべきものが少しずつ見えなくなっているのだと感じます。目の痛みに神経が集中してしまうと、他の事が疎かになり、食べる物もきちんと食べられなくなってしまうのだろーと思います。

そうすると、自分の将来もほんの少し先しか見えなくなってきました。周りをそのような意識で見えてみると、目の前のことしか見えなくなっている人が、日本中に溢れ、今では大半を占めているように感じます。少し先を見ることが出来る人は、収入をどう増やすかの算段もある程度出来るようになるでしょう。そして、ずっと先を見ることが出来る人は、健康を保ち、収入も安定すると感じます。

先日、高市早苗さんが総理大臣になった際、円でドルを買う為両替所に長い列ができた話が出ていました。正式な報道ではありませんが、少なくともドルを持っていた方が良く考えている人が、一定数日本にいるのだと感じました。

ドルを持ちたい人、ドルを買いたい人、市場価値が低いダイヤを承知で買いたい人、なけなしのお金でゴールドを買おうとする人が、来年は一気ではないにせよ、増えていくと思います。

餓死者数のような指標が表に出てくるようになった時は、事態が既に加速度的に悪化している段階だと思います。来年は、そのような流れに入っていくのだろーと思っています。

現在、超富裕層と呼ばれる人々がいますが、この富裕層の定義について、政府は基準を変更しました。これまでは、年間で 30 億円規模の資産を持つ人を対象に、多くの税金を課すとしていました。しかし今後は、資産を 6 億円以上保有している人も対象とし、多くの税金を課す方向に変更されたようです。

つまり、富裕層の枠を広げ、自分はそこまでではないと思っていた人達に対しても富裕層として扱い、より多くの税金を負担してもらう流れが進んでいるのです。今後は見境なく課税していく姿勢が強まっているように感じられます。日本が有事の状況に陥り、どうにもならなくなった場合、そうした富裕層は資産が没収される可能性もあります。

ですから、生き延びる為には、何よりも食べ物を手に入れる手段を確保しておかなければなりません。特に富裕層は、襲われる危険性もあります。歴史を振り返ると、五公五民のような重税の時代や、一揆が起きた際には、お金を持っている、儲かっていると見なされた店や蔵が襲われてきました。

実際に狙われるのは、食べ物です。襲われ、食料を奪われる、そうした状況が過去には現実として起きていました。私は今後、同じような状況が再び起こり得る時代に向かっているのではないかと感じています。

もう少し厳しい話をします。日本で自然災害が起きた際、比較的身近な例として、約 200 年前に起きた浅間山の噴火があります。その記録によると、人々は食べ物を全て食べ尽くし、牛や馬等の家畜も食べ尽くされました。特に被害が深刻だったのは東北地方では、想像を絶する状況が起きていたとされています。

親が子を、または子が親を食べるという出来事が記録されており、子どもが泣き叫ぶ声を聞いて近所の人々が家を覗いたところ、親が子供の内股にかぶりつき、子供は痛みには耐えられず泣き叫んでいたとされています。このように、飢饉が極限まで進んだ状況では、日本でも人肉を口にせざるを得なかった時代が実際にあったのです。この浅間山の噴火は、一時的な災害ではなく、比較的長期間にわたって影響が続きしました。

同じ時代、海外に目を向けると、フランスではマリー・アントワネットや国王が処刑され、フランス革命が起きています。時期的にも、浅間山の噴火とほぼ重なっています。キラウエア火山の噴火もあり、世界各地で似たような世界的異常気象が起きていたとされています。

こうした歴史を振り返ると、ひとたび飢餓状態に陥った際、人類がどのような行動を取るかは予測できず、国家や社会の秩序が保てなくなる状況が起こり得ることが分かります。今後そこまで至るとは限りません。しかし、過去には確かにそうした出来事があった事実を私たちは理解しておくべきだと思います。

そう考えると、高市早苗さんが「働いて、働いてまいります」と発言された事について、私は少しかわいそうだと感じました。頭の中にあった考えが、そのまま言葉として出てしまったのでしょう。

中国側は、何か日本が失言しないか、批判の材料になる発言をしないかと虎視眈々と狙っていた所です。この発言は中国にとって非常に敏感なテーマに触れた訳です。この台湾有事に触れたことで、これは日本を叩く絶好の機会だと受け取められたのだと思います。

昨日の新聞では、日本に行ってはいけないと再度通告が出されたという報道もありました。全体として、非常に対立を強めたい意図が見えるように思います。

そのような中で今回、中国とロシアが自衛隊機に対して抗議を行いました。その際、両国が揃って飛行していたという点が報じられました。これは、中国とロシアが足並みを揃え、敵と見なした相手に対しては共同戦線を張るという意思表示をしているように受け取れます。

現在、日本のメディアは、報道する内容としない内容を取捨選択しながら伝えています。その為、報道されている事実の背後に、まだ多くの情報が語られずに残っている可能性がある、と考えながら記事を読まなければいけないと感じています。隠しているというより、問題が大きくなり過ぎるから、今は触れないでこうと判断されている情報が多いように見えます。

戦争というものは往々にして偶発的に起こります。現在は、火種が至るところにあり、導火線に火がついている状態だと思います。まだ一気に燃え広がってはいませんが、少しずつ進み始めている、そういう段階にあるのではないのでしょうか。

インフレの加速と同様、戦争についても既に火はついています。あとは、それがどれほど加速するかという問題で、それが表面化するのが来年になるのではないかと見ています。もし一気にスピードが上がれば、日本有事の始まりになる可能性もあるでしょう。

ではそれに対してどう対処するのか、という点です。私自身がどのように対処してきたのか、また、これから何を準備していくのか、そして現在取り組んでいる事について、やはりお話しておく必要があると思います。

具体的には、食べ物の確保です。フレコンバッグを使って、ジャガイモを育てました。今年は比較的良く収穫できました。フレコンバッグの話はここでは詳しくしませんが、ちょうど収穫期に入ったこともあり、各営業所で収穫を行いました。場所によっては小さなものしか取れない所もありましたが、大きなものや中くらいのものが取れた所もありました。

やはり、肥料の与え方によって差が出るようです。同じ大きさのフレコンバッグを使い、土もほぼ同じ条件に入れていましたが、水を与えるタイミングや肥料の種類、さらには日差し、太陽の当たり具合によって、大きなジャガイモと小さなジャガイモに分かれたようです。

ここで、深澤事務所に籍を置いている大沢顧問の話を紹介します。この方は、農業も並行して行っています。今年はサツマイモの苗を 800 本植えたものの、実際に収穫できたのは 100 本程度で、残りは殆ど使い物にならなかったそうです。

専門家であっても、そのような結果になることがあると実感しました。植えたものが全て収穫できるとは限らないということです。だからこそ、研究や工夫が必要なのだと思います。種を蒔けば自動的に食べられる物ができる程農業は単純ではありません。

今年は、身をもって体験しましたので、来年は確実に食べられる作物を作らなければならないと考えています。専門家でも失敗することがある以上、なおさらです。農作物は、ある意味賭けだと感じています。

以前、三穀社という農業法人を立ち上げたお話をしましたが、結果的にうまくいかず、少し前に解散しました。現在は、それとは別の形で農業に取り組んでいます。ただ、実際に専門家の世界に入ってみると、農業は水の管理一つとっても先が読めず、結局は天候次第だと強く感じます。豊作だと思っていた矢先に、一瞬で全滅する事もあります。台風が来れば手の打ちようがなくなる事もありますし、最近では熊に食べられてしまい、収穫直前全て駄目になるケースも増えています。そうした現実を目の当たりにすると、農業とは本当に不確実性の高い、賭けの世界だと改めて思いました。

税金の話についても、触れておかなければなりません。今回の補正予算を見て感じたのは、給付や支援を行うには、当然ながら原資が必要です。その為に補正

予算が組まれています、その財源の6割以上は借金です。借金をしてお金をばら撒いている状況です。

借金をしてばら撒き、その先はどうするのでしょうか。これが一時的な補正予算ではなく、常態化していけば、やる事は決まっています。紙幣を刷り、お金を作り、借金に次ぐ借金を重ねる。その結果、世の中に出回るお金が過剰になれば、起きるのはインフレしかありません。

今から20年程前に、私が書いた本の中でも触れた記憶があります。当時既に、日本は非常に大きな借金財政を抱えており、この借金をどうやって返済するのかと問題提起しました。その際に考えられる道は二つだと書きました。

一つは、優れた指導者が現れ、財政再建を行い、正攻法で借金を返す方法。もう一つは、徳政令のような政策を出し、借金を帳消しにする方法です。

しかし、もう一つの可能性もあります。それは、インフレが極端に進むことで、事実上借金が帳消しになるケースです。

例えば今100円で買っていた物が、翌日には200円になり、1か月後には1万円になる、といったように、価格が急激に上昇していく現象がインフレです。極端な場合には、100円だったものが1万円、さらには100万円になる可能性もあります。

国はどうするかというと、デノミネーションを行います。これは、通貨の呼び方を変える政策です。分かり易い例は、ソ連の実例があります。ソ連が実際に行ったのは、単に呼び方を変えるだけではなく、価値そのものを引き下げる政策でした。

結果として、これまで多額の資産を持っていた人が、実質的にはほとんど価値のない状態になり、富裕層が一瞬で貧困層に転落しました。富裕層の資産を事実上リセットしたのです。

日本でも、その可能性は否定できません。もし重税国家の方向に進めば、同様のことが起こる余地は十分にあります。実際、戦後直後には、富裕層に対して90%の税率が課されました。資産を持っている人は、ほぼ没収に近い形で税を取られたのです。

現在の日本について言えば、私は目に見えない形で実質的に 50%程度の税負担がかかっていると感じています。政府の説明の仕方にも問題があると思います。例えば、富裕層の所得税は約 45%と言いますが、これは所得税だけの話です。実際には、10%の住民税や各種の付加税、さらに震災時に導入された税金が名前を変えて残っています。一度導入された税金を政府は手放しません。結果、トータルで見れば、かなり高い負担になっているのです。これは、富裕層だけでなく、一般の人にも当てはまる話です。

したがって、来年に向けて、日本はそうした方向へ、ゆっくりではありますが進んでいると見ています。そのスピードが一気に上がるかどうか、それが来年のポイントだと思います。

本日は、素読説明から入り、その流れで来年の話まで致しました。来年の見通しについては、以上です。

恒例の質問

恒例の質問に参ります。今年一年を振り返ってお考え下さい。

- 良い日が今年が続いておられる方
- 嘘はつかれなかったし、嘘もついていないという方
- 有難うと言いつけているし、有難うと言われ続けている方
- 身体の手入れをよくやっていると思う方
- 自分磨きをよくやっていると思う方
- 昨晚寝るとき、満足感を持って寝た方

判断の三原則

1.税金の仕組みはこれで良いのか？

良くありません。

2. なぜ日本は弱体化したのか？

これは皆、国全体が劣化したからです。特に官僚の劣化、政治家の劣化です。

3. 食べるものが無くなる日は来るか？

餓死している人が少しずつ出ています。今後増えるでしょう。

4. 日本は戦争に巻き込まれるか？

既に巻き込まれつつあります。

5. 少子高齢化のもたらすものは何か？

何も対策をしなければ国自体が無くなります。

ちょうど一年が経過いたしました。

今回は判断の三原則に簡単に触れて締め括りと致します。

一年間お世話になりました。来年もお互い良い年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。